

令和2年度 事業報告

岡山理科大学附属中学校

優れた教育内容を提供し、学んでいる子ども達の学力をさらに伸ばし、難関大学・難関高等学校入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



社会のグローバル化や産業構造の転換等により、個人に求められる能力は変化しつつあります。社会の持続的な発展を支えながらも自らの人生を切り開く力が必要です。そのために、次の項目に重点を置いた教育を展開していきます。

○人材形成と学力育成

大きな変化が見込まれる将来に向かって、自己の夢を実現し、目標を達成させるためには、まず、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する姿勢が欠かせません。そのため、これまでの知識・技能の教育に加えて、思考力や判断力さらには表現力、そして主体性・論理性という「真の学力の伸長」に取り組んでいきます。また、日々の学校生活を通して、基本的学習生活習慣をつけさせます。

○国際理解と国際力向上

グローバル社会の到来を踏まえ、異文化を理解し、国際力をつけることは、自己の表現力が付いた強い人間の養成につながると考え、英語力の強化に取り組みます。

○家庭との信頼関係

家庭と学校を繋ぐ生活記録ノートの活用により、生徒個々の家庭と密接に連携し学校内の様子等が伝わりさらなる信頼が得られるように努めます。

○組織力の向上

安定した学年運営を行うために、教職員が現状を把握するとともに、各々が分析を行い意識改革することで組織力の強化に努めます。

○経営基盤の安定

生徒確保に向けて学校組織全体で広報活動を強化しながら教育改革を進めます。生徒及び保護者が満足できる学校とするために、安定した経営基盤の構築に教職員が一丸となって努めます。

私たち教職員一同は、加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、「生活三則」の指導に一丸となって取り組んでいきます。

立志三風

- 一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風を尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風を養う（友愛）

生活三則

- 一、場を清めましょう
- 一、時を守りましょう
- 一、礼を正しましょう

岡山理科大学附属中学校 校長 田原 誠

I. 教育について

1. 人格形成と学力育成に関する中期目標		
中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
生徒に対して、立志三風と生活三則を継続的に推進します。 【1-1】	<p>■服装指導の実施 服装モットーは「凜とした爽やかさ」です。制服-規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしを指導します。</p> <p>■挨拶の励行 朝のあいさつ運動や職員室への入室指導などを通し、気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導します。この指導が面接での自己表現力に繋がるように努力します。</p>	<p>■服装指導の実施 制服については、「衣替え」がないので、TPOに合った清々しさを持った着こなしになるよう、クラス担任ならびに生徒指導課で日頃から指導しました。</p> <p>■挨拶の励行 毎週水曜に登校指導であいさつを指導していました。また、授業の開始終了時、職員室入室時などの指導も継続しており、今年度は特に、1年生はしっかり職員室入室時のあいさつができています。</p>
生徒一人ひとりを尊重し、お互い協力できる生徒作りを推進します。【1-2】	<p>■共通の教育目標 基本的な生活習慣を確立して、集団の中で協力しながら生徒が主体的に活動できる力を身につけるよう指導します。</p> <p>■将来につながるリーダーの育成 体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事は実行委員が主体的に運営しています。生徒が自主的に活動する中で企画力、実践力、思考力などを学び、個々の人間形成力を育成します。</p>	<p>■共通の教育目標 今年度はHR活動を中心に、クラス内の仕事を協力して取り組むように指導しました。委員会活動が十分取り組めていない状況なので、来年度は改善を図りたいと思います。</p> <p>■将来につながるリーダーの育成 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の関係で、例年どおりの行事運営が難しくなっています。体育祭は簡素化して10月23日に実施。爽凜祭は、クラス発表は控えて体育祭代替行事と同時期に実技系教科の作品を展示する形となりました。しかし、それぞれの準備においては生徒が協力しながら取り組んでおり、体育祭に代わる行事についてもクラスで力を合わせて盛り上げることができました。</p>

<p>学力を定着・向上させるための、学びの習慣化を推進します。【1-3】</p>	<p>■クラス編成</p> <p>令和元年度入学生からは、SR クラスとして多様な進路志望に対応できるようにし、同じ敷地内にある大学、高校との連携教育を実施することで、より深い見地から専門的な学びが出来るように改編しました。</p> <p>3年生は、高校進学クラス（定員40名）と中高一貫クラス（定員40名）と2種類のクラス編成です。高校進学クラスは、難関公立高校や難関私立高校への進学を目指します。中高一貫クラスは、国公立大学や難関私立大学への進学を目指します。</p> <p>■共通の教育目標</p> <p>少人数教育を生かして、生徒の学力の向上を進めます。さらに、国際的な視野を持ちながら、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる力を身につけるよう指導します。</p>	<p>■クラス編成</p> <p>1・2年生は、SR クラスとして多様な進路志望に対応できるようにし、同じ敷地内にある大学、高校との連携教育を実施することで、より深い見地から専門的な学びが出来るようにしています。</p> <p>3年生は、高校進学クラス（定員40名）と中高一貫クラス（定員40名）と2種類のクラス編成です。高校進学クラスは、難関公立高校や難関私立高校への進学を目指します。中高一貫クラスは、国公立大学や難関私立大学への進学を目指し、令和3年度高校入試においては全員の生徒が第一志望校に進学することができました。</p> <p>【主な進学実績】</p> <p>岡山理科大学附属高等学校 21名 岡山朝日高等学校 3名 岡山操山高等学校 1名 岡山一宮高等学校 1名 倉敷青陵高等学校 1名 倉敷天城高等学校 1名 津山工業高等専門学校 2名</p> <p>■共通の教育目標</p> <p>生徒の学力の向上を進めます。また、国際的な視野を持ちながら、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる力を身につけるよう指導しました。昨年度からスタートした「自分史プロジェクト」を発展させ、学力の振り返りのみならず、学校生活以外のことにおいても、自己を見つめなおせるよう指導しました。</p>
--	---	---

	<p>■クラス別教育目標</p> <p>・SRクラス（第1・2学年） 深い学びを通してしっかりとした学力をつけ、自分の進路をしっかりと考えて選択できる力の養成に努めます。</p> <p>・高校進学クラス（第3学年） 難関高校への進学に必要な学力の養成に努めます。また、高校で求められる、自分の考えをわかりやすく説明できる力の養成に努めます。</p> <p>・中高一貫クラス（第3学年） 基礎学力を充実させるところから始め、それをふまえて国公立大学や難関私立大学への進学に必要な学力の養成に努めます。また、科学的・論理的な思考能力を高め、探求活動を推進させます。</p> <p>■カリキュラム・シラバス関係</p> <p>(1)SRクラスの国語・数学・英語の授業進度は、中学3年の前期までに原則中学校の学習内容を終え、残りの期間は高校入試対策を含めた中学校内容の復習を行います。岡山理科大学附属高等学校のグローバルサイエンスコースで学習していく上で必要な学力の定着を進めます。</p> <p>(2) 高校進学クラスと中高一貫クラスの授業進度は、原則として3年生前期まではほぼ同じように進めます。3年生後期からは、高校進学クラスの授業では高校入試対策を実施し、中高一貫クラスの授業では一部高校の学習に繋げるための学習を行います。</p> <p>■授業・学習関係</p> <p>(1) 1単位あたり年間35時間の授業時間を確保します。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のための臨時休業により授業時間が確保できないため、夏期休業などを短縮して授業を設けます。</p> <p>(2) 受験対策としての補習を実施します。</p>	<p>■クラス別教育目標</p> <p>・SRクラス（第1・2学年） 毎日の学習計画のチェック、「帰りの学習」の学習内容の指定など学習習慣の向上と学力伸張を図りました。</p> <p>・高校進学クラス（第3学年） 難関高校への進学に必要な学力の養成に努め、継続した面接指導により、自分の考えをわかりやすく説明できる力を高め、志望校の合格を果たすことができました。</p> <p>・中高一貫クラス（第3学年） 基礎学力の充実を図り、中学校の内容を復習させ、附属高校の中高一貫コースで学ぶための意識付けを行いました。</p> <p>■カリキュラム・シラバス関係</p> <p>(1)SRクラスの国語・数学・英語の授業進度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校期間があったため、予定より少し遅れていましたが、今年度は2年生までなので、来年度には予定通りの学習内容（中学校内容の復習も含む）を行えるようにしたいと思います。</p> <p>(2)高校進学クラスと中高一貫クラスの授業進度については予定の進度より少し遅れていましたが、1月からは高校進学クラスでの高校入試対策、中高一貫クラスでの高校学習につなげるための学習を実施することができました。</p> <p>■授業・学習関係</p> <p>(1)今年度は新型コロナウイルス感染症防止のための臨時休業により授業時間が確保できないため、夏期休業などを短縮して授業を設けました。また、体育祭や爽凜祭を代替行事に切り替えて、準備時間などを削減することで、授業時間の確保に努めました。</p> <p>(2)冬季休業中に受験対策としての補習を実施しました。</p>
--	---	--

	<p>■ 考査関係 成績不振の判定基準点を設け、基準点に達していない生徒への指導を行います。指導期間中の部活動は原則禁止とします。</p> <p>■ 校外模試 (1) 学習の定着度をはかり、全国との学力比較や各生徒の弱点の把握などのために、校外模試を受験します。 (2) 高校進学クラスでは、県内の高校入試対策として県模試等の各種模試を受験します。</p> <p>■ 自習教室の開設 全学年の生徒を対象とし、自学自習の習慣を身につけることを目的に、岡山理科大学と連携し、教員志望の大学生を講師として自習教室を通年で週3日、放課後に開講します。</p>	<p>■ 考査関係 原則として、考査期間中の部活動は禁止しています。 5教科(国語・社会・数学・理科・英語)では成績不振の判定基準点を設け、基準点に達していない生徒については保護者への通知を行い、保護者の協力のもと指導を行いました。</p> <p>■ 校外模試 今年度は、1～3年生全体で、県内の高校入試対策として県模試等の各種模試を受験しました。この結果を各生徒に通知して、面接指導等に生かすことで、生徒自身の県内での学力位置を確認させることで、早いうちから進路意識を持たせられるように指導することができました。</p> <p>■ 自習教室の開設 全学年の生徒を対象とし、自学自習の習慣を身につけることを目的に、岡山理科大学と連携し、教員志望の大学生を講師として自習教室を通年で週3日、放課後に開講しました。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、学年別を実施することで、「密」を避ける工夫をしています。</p>
<p>学力を向上させるための、教授法研究を推進します。【1-4】</p>	<p>■ 学習計画の指導 「学習の記録」にその日取り組む学習計画を書き、できたことをチェックする習慣が身につくよう、指導します。また、「自分史プロジェクト」と題して、さまざまな活動についての振り返りをまとめ、ポートフォリオが作成できるよう指導します。</p>	<p>■ 学習計画の指導 「学習の記録」にその日取り組む学習計画を書き、できたことをチェックする習慣が身につくよう、「やりっぱなし」にならないよう、振り返りをさせる時間をとることができました。また、「自分史プロジェクト」により、年度初めと中間・年度末に自分の目標と達成したことを振り替える機会を持つことができ、PDCA サイクルに生かすことができました。</p>

	<p>■授業改善</p> <p>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業や ICT を利用した授業方法、評価方法などの教職員研修会を定期的実施します。さらに、「Classi」（ベネッセ）を利用して、教員間の情報共有を図ります。</p> <p>また、他者を尊重しながら自分の考えを表わし深める力や論理的に考えることが出来る力の養成に努めるために、岡山理科大学附属高等学校が取り組んでいる国際バカロレアの教育手法を取り入れます。</p> <p>さらに、教員の授業力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176と連携を継続します。</p> <p>■教科会議・学年団会議の強化・連携</p> <p>各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進し、情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図ります。</p> <p>また、学年団会議ならびに中学校担任会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行います。</p>	<p>■授業改善</p> <p>5月の休業期間中には、一方向のオンライン動画授業を展開しました。しかしながら、生徒の理解度確認のためにも、また生徒の学習意欲向上のためにも、双方向でのオンライン授業の必要性が高まっています。今年度は教職員の ICT 研修会を実施できませんでしたが、来年度から「1人1台 PC 端末」の利用を Chromebook により行う予定ですので、それを活用した学習活動に関する教員間の情報共有と教員の ICT スキル向上を図るための、教員への ICT 研修会を開催する予定です。</p> <p>また、他者を尊重しながら自分の考えを表わし深める力や論理的に考えることが出来る力の養成に努めるために、道徳の時間や総合的学習の時間等を利用して、協働学習を行いました。</p> <p>さらに、教員の授業力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176 と連携を継続しています。</p> <p>■教科会議・学年団会議の強化・連携</p> <p>各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進し、情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図りました。定期的に受験する模擬試験の結果についても、教科担当で回覧しながら学年の成績を踏まえて、指導の改善につながっています。</p> <p>また、学年団会議ならびに中学校担任会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行っています。中学生は特に、低学年で友人関係やコミュニケーションの問題を抱えやすいので、担任と教育相談室が連携しながら生徒への適切な対応をとるようにしました。</p>
--	---	---

Ⅱ. 学生支援について

1. 生徒支援体制の強化に関する中期目標		
中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
<p>入学から卒業までの支援体制の強化を構築します。【2-1】</p>	<p>■家庭、地域社会との協力・連携強化 毎日の生活記録ノートの確認や家庭への電話連絡等で家庭との協力を深めます。また中学生専用の定期バスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施や、御野学区連絡協議会などを通じ、地域との連携をしていきます。</p> <p>■教育相談室・保健室との連携 思春期である中学生期を心身とも健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化します。</p>	<p>■家庭、地域社会との協力・連携強化 今年度は「生活記録ノート」の様式を改訂し、忘れ物を減らし家庭ですべきことを計画して振り返りができるようにしました。これをもとに生徒の状況を担任が把握しながら、家庭への連絡を丁寧に行いました。また、リニューアルしたホームページの保護者への連絡ページや、保護者に登録していただいた一斉メールを使いながら、必要な連絡が確実にできるようにしました。日頃の通学指導も継続してきちんと取り組みました。なお御野学区連絡協議会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できませんでしたが、必要な連絡はできています。</p> <p>■教育相談室・保健室との連携 臨時休業に伴う行事の見直しや授業優先になっていることもあり、生徒同士の関係作りが例年より難しくなっているため、保健室・教育相談室の利用者が増えました。また、保護者の不安も強まっており、教育相談が増えました。これまで以上に、担任と教育相談室・保健室の連携を心がけていきます。</p>
<p>社会との協働で、生徒の視野が広くなり常識的な習慣を身につけられるように、社会との繋がりを強化します。【2-2】</p>	<p>■社会性規範育成への取組 外部講師による講演などを活用し、規範意識の啓蒙に努めます。学校独自としての規則だけではなく、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導や話し合いを行います。</p>	<p>■社会性規範育成への取組 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外部講師の講演をとりやめました。 総合的学習の時間などで、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるような指導を工夫しました。</p>

	<p>■情報教育</p> <p>生徒のインターネットリテラシーの現状を踏まえ、情報モラルの向上に努めます。その一環として岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施します。また、SNS等個人情報の適切な扱いを指導します。</p>	<p>■情報教育</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため岡山県警察本部からの講師をお招きした「インターネットモラル教育」の講演は実施していません。代わりに、本校教員によるネットいじめに関するプレゼンを、1年生対象に7月に実施しました。</p> <p>また、生徒に対する情報モラルの向上のための指導を生徒指導課により実施しました。</p>
--	--	---

Ⅲ. 国際化について

1. 国際理解と国際力向上に関する中期目標		
中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
<p>国際化を日常的なものにとらえ、多様な教材等を使用し語学の伸長に対応できる工夫をします。【3-1】</p>	<p>■論理力向上のための取り組み</p> <p>国語授業の中で「論理エンジン」を副教材として取り扱い、論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養います。また「Literas 論理言語力検定」や「作文検定」を受検し、論理的思考力・表現力の定着度を図ります。</p> <p>■英会話</p> <p>英会話を1～3年生の全クラスで実施し、自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養います。この授業についてはケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176 スタッフの協力を得て実施します。また、1年生から大学入学共通テストを見越し、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定機構が発刊するコースブックを使用しています。</p>	<p>■論理力向上のための取り組み</p> <p>国語授業の中で「論理エンジン」を副教材として取り扱い、論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養っています。特に、1年に対しては国語授業の中で「論理」の時間を週1回実施しました。また11月に「Literas 論理言語力検定」を、9月に「作文検定」をそれぞれ受検して、作文検定については3級以上合格者が80%以上を達成しました。</p> <p>■英会話</p> <p>英会話を1～3年生の全クラスで実施し、自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養っています。この授業についてはケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176 スタッフの協力を得て実施しています。また、1年生から大学入学共通テストを見越し、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定機構が発刊するコースブックを使用しています。希望者にはケンブリッジ英語検定（12月13日）を受検させました。</p>

	<p>■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施</p> <p>(1) 1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目標とします。</p> <p>(2) 2年在籍生徒の8割以上が4級以上の取得を目標とします。</p> <p>(3) 3年在籍生徒の6割以上が3級以上の取得を目標とします。</p> <p>(4) 教員が生徒に対し、積極的に受験指導を行います。</p>	<p>■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施</p> <p>漢字検定は11月に、英語検定は1月に全員受験しました。漢字検定については、1年60%、2年50%、3年30%の目標達成率でした。一方、英語検定は1年63%、2年41%、3年41%の目標達成率でした。</p> <p>来年度は、計画的な検定対策を取り入れて、目標達成を目指します。</p>
<p>国際化を日常的なものにとらえ、多様な教材等を使用し語学の伸長に対応できる工夫をします。【3-1】</p>	<p>■TOEFL Primary Test を1・2年生に実施・希望者にケンブリッジ Key Test 実施</p> <p>(1) 1年修了時にはCEFRのA2レベルをクリアすることを目標とします。</p> <p>(2) 2年修了時にはCEFRのB1レベルをクリアすることを目標とします。</p> <p>(3) CEFRのB1レベルをクリアした生徒にはTOEFL Junior Standardの受験を勧めます。</p> <p>■授業・学習関係</p> <p>岡山理科大学附属高等学校で令和2年度から開始される国際バカロレア教育の手法を取り入れ、課題に対して論理的・批判的に考えて研究する取り組みを設けます。グローバル社会に適應できる人材の養成に努め、語学力の向上を図ります。</p>	<p>■TOEFL Primary Test を1・2年生に実施</p> <p>TOEFL Primary Test は、実施ができませんでしたので、来年度は実施できるように計画します</p> <p>■授業・学習関係</p> <p>岡山理科大学附属高等学校IB担当の協力により、中学生向けの「考えるカフェ」を希望者対象で9月からスタートし、20名以上の参加を得ることができました。</p>

IV. 組織・運営について

1. 組織力の向上に関する中期目標		
中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
<p>学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織作りを目指します。【4-1】</p>	<p>■学校運営会議の強化</p> <p>校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、学校全体の運営方針に基づき、学校運営が円滑にかつ革新的に進むよう、学校業務の企画立案および連絡調整を強化します。</p>	<p>■学校運営会議の強化</p> <p>毎週月曜日に中学校の運営会議を実施して、学校業務の企画立案および連絡調整を行いました。また、教務アプリのClassiで中学校運営会議メンバー間の情報交換がいつでもできるようにしており、会議ができないときも情報の共有ができるようになりました。</p>

V. 内部質保証について

1. 内部質保証システム体制の確立に関する中期目標		
中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
<p>内部質保証システム体制の確立と第三者評価を導入します。【5-1】</p>	<p>■生徒による授業評価・教員自身による授業評価 確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に活かします。</p> <p>■生徒・保護者・第三者による学校評価 学校教育活動が教育目標の実現のために適切に行われているかどうかについて、生徒・保護者ならびに第三者による外部評価を頂き、それをもとに学校教育活動のさらなる改善を図ります。</p> <p>■授業計画書の作成 全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解できるようにし、円滑な学習活動を助けます。</p> <p>■考査関係 定期考査の成績処理終了後、各教科各学年の学習定着状況を把握し、授業計画書を見直します。</p> <p>■成績評価基準の見直し 観点別評価のルーブリックを各教科で整備して、「知識・理解」に偏った評価にならないよう、授業中の活動や課題提出なども正当に評価し、生徒が主体的に学ぶことができるような教育改革を進めます。</p>	<p>■生徒による授業評価・教員自身による授業評価 今年度は12月に実施しました。この成果をもとに、教員自らが授業改善を行いました。</p> <p>■生徒・保護者・第三者による学校評価 本年度の学校評価を1月に行い、結果を集計中です。令和3年4月に教員間で分析して、学校教育活動の改善につなげることを予定しています。</p> <p>■授業計画書の作成 全科目の授業計画書を年度初めに作成しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休業を行いましたので、計画書を見直して授業を実施しました。これをもとにして授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解できるようにしました。</p> <p>■考査関係 定期考査の成績処理終了後、各教科各学年で成績を共有しています。また、この成績を観点別評価の材料の一つとして、生徒の学習への取り組みが多面的に評価されるようにしています。</p> <p>■成績評価基準の見直し 観点別評価のルーブリックを各教科で整備して、「知識・理解」に偏った評価にならないよう、授業中の活動や課題提出なども正当に評価し、生徒が主体的に学ぶことができるような教育改革を進めています。また、来年度からの学習指導要領改訂に伴い、指導要録やルーブリック、成績通知票等の見直しをしました。</p>

VI. 運営・財政基盤について

1. 志願者増加への方策に関する中期目標		
中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
<p>情報提供を一層強化します。【6-1】</p>	<p>■情報提供</p> <p>(1) オープンスクールや理科実験教室のアンケートによれば、参加動機の上位には常に「小学校からの案内」がランクインしています。小学校の自由研究系課題とリンクさせた企画内容を維持するとともに、印刷物等により案内を行います。</p> <p>(2) オープンスクールや入試だけでなく、学校の情報を新しくリニューアルしたホームページやfacebookでも、迅速に幅広く提供します。さらに、直前には新聞等の告知を行い、生徒数の確保に努めます。</p>	<p>■情報提供</p> <p>(1) オープンスクールの副題やチラシにおいて、「自由研究課題を終わらせよう」という文言をクローズアップしたことで、9割を超す講座が満席となり、キャンセル待ちが多数でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、定員増加ができませんでした。</p> <p>(2) ホームページを新たに作り直し、小学生に対する「ワクワク感」を前面に押し出しました。また、情報掲載量を最小限に抑えることで、発信したい情報のみを届けられるレイアウトにしました。Facebookだけでなく、Instagramも新たに開設し、幅広い世代へのアプローチが可能となりました。しかしながら、SNSに関しては人手不足・時間不足から今年度の更新は滞っている現状があり、改善の必要があります。 *5月から7月にかけて実施したYouTubeを利用した講座において、申込時にメールアドレスを必須とし、1000件を超えるアドレスの登録をいただきました。そのため、以降のイベントの案内、学校情報発信において、迅速かつ確実に多数のご家庭に情報提供することが可能になりました。</p>
<p>塾との信頼関係をより一層強化します。【6-2】</p>	<p>■塾との関係の強化</p> <p>中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をします。</p> <p>従来の塾訪問に加えて「通勤経路型塾訪問」を実施し、それぞれの塾に本校教職員の担当固定化を行い、相当数の塾訪問を計画し、円滑に実施します。さらに、入試結果を踏まえた塾対象入試説明会をオンラインで6月に実施予定です。</p>	<p>■塾との関係の強化</p> <p>過去の入試データより主要塾を整理し、月に1回のペースで訪問しました。訪問者を入試広報課長に絞り、より密接な関係性が構築できました。また、私立小学校への訪問を上記同様開始し、受験者・入学者のさらなる増加に向けて動きました。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各教員による「通勤経路型塾訪問」は中止としました。代案として、ホームページ上に塾関係者が登録できるサイトを作成し、登録時に入力したメールアドレスにテキスト・画像・動画などのコンテンツを用いた情報を発信しました。これを塾対象オンライン説明会とし、以後、継続的な情報発信を行いました。</p>

<p>イベントの内容を充実します。【6-3】</p>	<p>■広報企画</p> <p>昨年度も実施した「県立中学校適性検査型対策講座」等には多くの児童保護者の参加がありました。今年度も継続実施し、引き続き本校教員の各入学試験分析力と入学試験作題力の向上を目指します。</p> <p>また、学校見学（個別オープンスクール）にて、児童保護者に対し平素の学校を見学する機会を設け、3年生で開講している学校設定科目「理科実験」の見学を積極的に呼びかけます。</p> <p>①県立中学校適性検査型早期対策講座（5月 オンラインで開催）</p> <p>②県立中学校適性検査型対策講座（10月）</p> <p>③教科型入試対策講座（11月）</p> <p>④オープンスクール（7・8月）（本校教員による参加体験型授業）</p> <p>⑤理科実験教室（8月）（岡山理科大学教員による参加体験型授業）</p> <p>⑥論理教室（6・7・8月）</p> <p>⑦トワイライト天体観測会（9月）</p>	<p>■広報企画</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大により、イベントの内容・時期などを一部変更しつつ実施しました。</p> <p>【実施済みイベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立中学校適性検査対策 YouTube 講座 ・論理教室 YouTube 講座 ・第1回オープンスクール（理科実験講座） ・第2回オープンスクール（理科実験講座） ・第3回オープンスクール（論理力育成講座） ・第1回入試説明会（兼 天体観測会） ・第2回入試説明会（兼 適性検査模試） ・第3回入試説明会（兼 選択教科模試） <p>昨年度の集客数 1281 名に対し、今年度の集客数が 2889 名と、約 1600 名増加しました。2つの入試説明会も募集から数日で満席（合計 1200 席）となり、申込締め切り日まで約 1 か月を残しての募集終了となりました。なお、Web を利用した申込で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために申込定員を設けましたが、キャンセル待ちが合計 300 組 600 名を超えた状況となり、非常に高い反響がありました。</p>
<p>入試制度を検証します。【6-4】</p>	<p>■入試制度の検証</p> <p>多様な力を秘めている児童ひとりひとりの力がはかれるように、「推薦入試（調査書型）」「推薦入試（基礎学力型）」「適性検査型入試」など入試制度を検証し、さらなる受験生増につながる入試制度の策定に取り組みます。また、オープンスクール参加から入試出願まで受験者の便宜を図るため「web 出願」導入を実施します。</p>	<p>■入試制度の検証</p> <p>2年前から導入した推薦入試を中心に、昨年度と同様、多様な力を試す入試制度で実施しました。</p> <p>また、定員確保と同時に入学者の質の向上を狙い、推薦入試（自己推薦）において、新たに「担任所見」の提出を必須とし、小学校での学習・生活態度を重視することにしました。</p> <p>出願、合格発表をインターネットで行うことで、受験者の便宜を図るとともに、様々な資料の郵送料などが不要となり、経費節減につながりました。</p> <p>前年度の志願者数 298 名に対して今年度は 414 名の志望者を集めました。他校が軒並み志願者を減らす中で、本校の受験者増加は特筆すべきことでした。</p> <p>しかし、実際の入学者は前年度とほぼ同数でしたので、本校の取り組みをさまざまな点から検証して、さらなる改善を図ります。</p>

主な行事予定

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休業ならびに行事の中止・延期があります)

4月9日	入学式 (中止)
4月18日	授業参観 (中止)
5月31日	PTA 総会 (書面審査による実施)
6月1日	始業式
6月14日	音楽鑑賞 (中止)
7月16日、21日	健康診断
10月23日	体育祭 (本校)
10月23日	爽凜祭 (学習発表会) (縮小実施)
11月11日	蒜山研修 (修学旅行の代替)
12月17日	百人一首大会 (中止)
2月5日、6日	校外活動 (中止)
3月13日	卒業式
3月15日～23日	海外研修 (中止)
3月19日	終業式

生徒・教員数

■在籍生徒数

(令和2年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	64	240	146

(単位：人)

■教職員数

(令和2年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員計
1※	1	9	10

※校長は附属高等学校と兼任

事務職員
1

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和元年度 決算額	令和2年度 決算額	
教育活動 収入	学生生徒等納付金		70,226	80,149	
	経常費等補助金		52,711	54,043	
	その他収入		3,121	4,398	
	計		126,058	138,590	
	教育活動 支出	人件費		119,455	117,580
教育研究経費			23,667	22,851	
管理経費			11,676	11,429	
その他支出			0	23	
計			154,798	151,863	
教育活動収支差額			△ 28,740	△ 13,273	
教 活 外	取 受	取 受	利息等	1	1
	支 借	入 金	利息等	0	0
	教育活動収支差額			1	1
経常収支差額			△ 28,739	△ 13,272	
特 別	取 資	産 売	却差額等	1,303	126
	支 資	産 処	分差額等	0	0
	特別収支差額			1,303	126
基本金組入前収支差額			△ 27,436	△ 13,146	
基本金組入額合計			△ 2,261	△ 828	
当年度収支差額			△ 29,697	△ 13,974	